

樞密院議長公爵近衛文麿殿

昭和十四年七月五日

委員長 河合顧問官 左

委員 鈴木顧問官 左

窪田顧問官 右

鈴木進顧問官 左

清水顧問官 右

荒木顧問官 左

湖顧問官 右

秘

軍事保護院官制外三件審査報告

軍事保護院官制外三件審査報告

秘

今日御諮詢ノ軍事保護院官制軍事保護院ノ職  
 員ノ特別任用ニ關スル件、大正二年勅令第二百  
 六十二號任用分限又ハ官等ノ初叙陞叙ノ規定  
 ヲ適用セサル文官ニ關スル件中改正ノ件及奏  
 任文官特別任用令中改正ノ件ニ關シ本官等審  
 査委員ヲ命ゼラレ本月三日委員會ヲ開キテ國  
 務大臣及關係諸官ノ説明ヲ聽キ以テ之カ査査  
 ヲ遂ゲタリ

現行官制ニ於テハ九ノ軍人援護ニ關スル事務

ノ中傷疾軍人ノ療養職業保護其ノ他ノ保護ニ  
關スル事務ハ客年四月本院ノ議ヲ經厚生省ノ  
外局トシテ設置セラレタル傷兵保護院ヲシテ  
之ヲ掌ラシメ軍事扶助法ノ施行其ノ他傷兵保  
護院ノ主管ニ屬セザル軍人援護ニ關スル事務  
ハ一昨年十一月内務省所管社會局後ニ厚生省  
ニ設置セラレ同局社會部長後ニ厚生省社會局  
長ヲ以テ部長ニ充テタル臨時軍事援護部ヲシ  
テ之ヲ掌ラシムルコトトセリ然ルニ今次事變  
ノ繼續進展ニ伴ヒ戰歿軍人ノ遺族及出征軍人

ノ家族ノ援護歸還軍人ノ保護其ノ他臨時軍事  
援護部ノ主管ニ屬スル事務頗ニ重要且複雑ト  
爲リ之ガ處理ニ一層ノ努力ヲ加ヘ事態ノ經過  
ニ伴ヒテ適切ナル措置ヲ施サザルベカラズシ  
テ其ノ事務ノ遂行ニ遺憾ナカラシムル爲メ更  
ニ之ニ關スル機構ヲ強化スルノ要アルニ到レ  
リ而シテ傷兵保護院及臨時軍事援護部ノ管掌  
スル所ハ孰レモ軍人援護ニ關スル事務ノ範疇  
ニ屬シ其ノ間固ヨリ密接不可離ノ關係ヲ存シ  
其ノ處置ハ常ニ能ク協調ヲ保チ彼此權衡ヲ失

スルガ如キコトナカラシメザルベカラザルガ  
故ニ此ノ兩者ヲ併合シテ一機關ト爲シ之ヲシ  
テ軍人援護ニ關スル全般ノ事務ヲ綜合的一元  
的ニ擔當セシムルハ處務ニ便宜多クシテ其ノ  
能率ヲ増シ其ノ成績ヲ良クスル所以ナルノミ  
ナラズ又從前ノ臨時軍事援護部ノ機構ヲ強化  
シ其ノ機能ヲ充實スル所以タルベシ乃チ内閣  
ニ於テハ從前ノ傷兵保護院及臨時軍事援護部  
ヲ合一シテ之ヲ厚生省ノ外局タル軍事保護院  
ト爲スノ議ヲ定メ其ノ官制竝ニ之ニ附帶スル

職員ノ任用及官等ニ關スル規程計勅令四件ヲ  
茲ニ本院ノ詢議ニ付セラレタルナリ

今本案四件ノ要旨ヲ開陳スレバ左ノ如シ

### 第一 軍事保護院官制

(一) 軍事保護院ハ厚生大臣ノ管理ニ屬シ傷疾  
軍人ノ療養、職業保護其ノ他ノ援護ニ關スル  
事項、軍人遺族ノ援護ニ關スル事項、軍人家族  
ノ援護ニ關スル事項及其ノ他軍人援護ニ關  
スル事項ヲ掌ルモノトシ(第一)(二) 同院ニ常務  
職員トシテ親任名譽官ノ總裁、勅任ノ副總裁

一人及局長二人、奏任ノ秘書官、稽誥官、叙任、博  
ス一人、書記官、事務官、理事官、技師、醫官及調劑  
官並ニ判任ノ屬、技手、醫官補、調劑官補及看護  
婦長各若干人ヲ置キ(條三)別ニ厚生大臣ノ奏  
請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於  
テ事務官ヲ命ズルコトヲ得ルモノトシ(條三)  
(三)同院ニ總裁官房並ニ援護及業務ノ二局ヲ  
置キ總裁官房ニ於テハ人事、文書及會計ニ關  
スル事務並ニ他ノ主管ニ屬セザル事務ヲ掌  
リ援護局ニ於テハ軍事扶助法ノ施行、軍人遺

族及軍人家族ノ援護並ニ業務局ノ主管ニ屬  
セザル軍人援護ニ關スル事務ヲ掌リ業務局  
ニ於テハ傷痍軍人ノ療養及職業保護並ニ工  
營ニ關スル事務ヲ掌ルモノトシ(條四)(四)厚生  
大臣ハ傷痍軍人ノ療養又ハ職業保護ニ關ス  
ル院務ノ一部ヲ分掌セシムル爲メ同大臣ノ  
定ムル名稱及位置ニ依リ療養所又ハ職業補  
導所ヲ設クルコトヲ得其ノ所長ハ醫官又ハ  
事務官ヲ以テ之ニ充ツルコトトシ(條五)(五)同  
院ニ軍人援護ニ關スル重要事項ニ參畫セシ

ムル爲メ顧問五人以内ヲ置キ厚生大臣ノ奏  
請ニ依リ之ヲ勅命スルモノトシ(第六)又院務  
ニ參與セシムル爲メ參與十五人以内ヲ置キ  
厚生大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官又ハ  
學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命  
ジ其ノ學識經驗アルニ因リ命ゼラレタル者  
ニハ三年ノ任期ヲ附シ(第七)専門ノ事項ヲ調  
査セシムル爲メ専門委員ヲ置キ厚生大臣ノ  
奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ  
於テ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ二年トシ(第八)(六)總

裁以下ノ常務職員ノ職務ヲ定メ(第九條乃至

第十條)

(七)傷兵保護院官制及臨時軍事援護部設置ノ

規程(昭和十二年勅令

第六百二十四號)

ハ之ヲ廢止ス(附二)

軍事保護院ノ常置職員タル各官及定員其ノ

他ノ機構ハ從前ノ傷兵保護院及臨時軍事援

護部ヲ其ノ儘合併シタルモノナリ從テ此ノ

新官制ノ施行ノ爲メ別ニ經費ノ増額ヲ要ス  
ルコトナシ

## 第二 軍事保護院ノ職員ノ特別任用ニ關スル

件

第三 大正二年勅令第二百六十二號任用分限  
又ハ官等ノ初敘陞叙ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件中改正ノ件

第四 奏任文官特別任用令中改正ノ件

從前傷兵保護院ノ副總裁、局長及事務官ハ各其ノ職務ニ必要ナル學識經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ者ニハ高等官官等俸給令第四條ニ定メタル初敘官等ノ制限ヲ適用セザル旨ノ規程(昭和十三年勅令第一號)アリ又同院理事官ハ現ニ奏任文官

特別任用令列記ノ諸官中ニ掲ゲラレ同令所定ノ官歴アル者ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得ルモノトセララル此等ノ任用及官等ニ關スル別段ノ規定ハ新設ニ係ル軍事保護院ノ副總裁、局長事務官及理事官ニ付テモ亦其ノ必要アルニ由リ本案ノ三件ヲ以テ從前ノ規程ニ改廢ヲ加ヘ右新設ノ職員ノ爲メニ同一ノ趣旨ノ規定ヲ設ケントス

按ズルニ傷疾軍人、軍人遺族及軍人家族ノ援護  
其ノ他各般ノ軍人援護ニ關スル事務ハ特ニ現  
下時局ノ對策トシテ極メテ緊切ナル意義ヲ有  
スルモノナルコト絮說ヲ俟タズ而カモ今次事  
變ノ經過ニ從ヒテ愈々其ノ重要性ヲ増加スベ  
キコト亦多言ヲ須ヒズ政府ニ於テハ現ニ厚生  
省ノ内外ニ臨時軍事援護部及傷兵保護院ナル  
機關ヲ特設シテ此等ノ事務ヲ擔當セシメタル  
モ更ニ其ノ機構ヲ整理シテ其ノ機能ヲ昂揚セ  
シメ處務ヲ圓滑ニシテ施設ニ齟齬ナカラシメ

以テ現時ノ事態ノ下ニ努メテ軍人援護ノ完壁  
ヲ期スル爲メ茲ニ右ノ二機關ヲ合體シ改メテ  
厚生省ノ外局タル軍事保護院ト爲サントスル  
モノニシテ本案ノ軍事保護院官制ハ其ノ趣旨  
ニ於テ之ヲ是認スベク其ノ條項ニ至リテハ從  
前ノ規程ト多ク異ル所ナクシテ特ニ指摘スベ  
キ廉ヲ認メズ爾餘ノ三件ハ軍事保護院ノ特殊  
ノ官ニ關シ實際ノ必要ヲ慮リテ任用及官等ノ  
特別ヲ設ケ以テ適材ノ登用ヲ容易ナラシメン  
トスルモノニシテ別ニ支障ノ廉ヲ認メズ仍テ



審査委員會ニ於テハ本案ノ四件ハ總テ此ノ儘  
之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議  
決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十四年七月五日

審査委員長

樞密顧問官

河合 操

審査委員

樞密顧問官男爵鈴木貫太郎

樞密顧問官 窪田静太郎

樞密顧問官

鈴木 莊六

樞密顧問官

清水 澄

樞密顧問官

荒木寅三郎

樞密顧問官

潮 惠之輔

樞密院議長公爵近衛文麿殿



昭和十四年七月十三日

委員長 鈴木龍藏顧問官 五

委員 窪田顧問官 六

石塚顧問官 六

清水顧問官 七

奈良顧問官 五

松浦顧問官 八

林(一)顧問官 七

世傳御料解除ノ件審査報告

皇 宮 記 卷